

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

認定年度	令和5年度	学校コード	F135210110070	設置等組織名	国際文化学部情報社会学科
大学名	山口県立大学	設置区分	公立	事業計画名	地域社会の未来をデザインし、人々の暮らしのDX推進に貢献できる人材を養成する文理融合型の情報社会学科（仮）を新設
学校種	大学	都道府県	山口県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に承認印を赤字で記載してください。計画変更申請した場合は「取組状況」に承認印を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
フェーズ1	1-① 令和5年9月～ 新学科設置の書類の準備 1-② 令和5年9月～ 3つのポリシーとアセスメントポリシー並びにかきまわりの構築 1-③ 令和5年9月～ 新学科の入学者選抜方法の検討 1-④ 令和5年9月～ 県内の高等専門学校等ならびに地域へ情報発信・広報 1-⑤ 令和5年9月～ パートナー企業等及び地域が求める人材育成ワーキンググループとの協議 1-⑥ 令和5年9月～ 新学科のニーズ、求める人材像に関する調査（高校生、保護者、企業等） 1-⑦ 令和5年9月～ 高大接続事業（高校生向け講座開設、ジュニアリサーチセッション開催）の実施 1-⑧ 令和5年10月～ 大学間連携を活用した新学科科目の試行と検証	1-① 令和5年9月～ 新学科設置の書類の準備 1-② 令和5年9月～ 3つのポリシーとアセスメントポリシー並びにかきまわりの構築 1-③ 令和5年9月～ 新学科の入学者選抜方法の検討 1-④ 令和5年9月～ 県内の高等専門学校等ならびに地域へ情報発信・広報 1-⑤ 令和5年9月～ パートナー企業等及び地域が求める人材育成ワーキンググループとの協議 1-⑥ 令和5年9月～ 新学科のニーズ、求める人材像に関する調査（高校生、保護者、企業等） 1-⑦ 令和5年9月～ 高大接続事業（高校生向け講座開設、ジュニアリサーチセッション開催）の実施 1-⑧ 令和5年10月～ 大学間連携を活用した新学科科目の試行と検証 1-⑨ 令和5年10月～ 教育内容の充実のためのFPO実施（R5.11.8承認） 1-⑩ 令和5年10月～ 教育環境の充実のための先進事例視察（R5.11.8承認） 1-⑪ 令和6年3月～ 新学科設置に係る教育環境整備・検討（R6.3.29承認）	R5年度自己評価 【3】計画を十分に実施している。 文理融合型の情報社会学科（仮称）について、学部分野を「文学関係、工学関係」とする内容で教育課程を検討し、学内における議論に加え、学外関係者との意見交換や助言の機会を得、さらに地域社会におけるニーズ調査結果を踏まえて、申請書類を準備した。さらに、教育内容や教育方法、教育結果の評価方法、教育環境整備などについては先行事例を調査し、FDや視察、聞き取りなどを通して検討を進めた。また、情報社会学科で育てた人材を輩出するにあたって、地元企業や行政、団体等を訪問し、実践的な教育を行うための連携の在り方、身に付ける力への期待や要求、卒業後の就職先などに関する情報を収集し、学科での教育に活かせるよう試行科目を実施している。高大接続については、高等学校における探究活動からPBLに発展させるためのノウハウについて検討するとともに、文系学生を入学に際して必要となる数学等の入学前教育の検討、入学後の補修教育の必要性について検討した。さらに、高校生目線のキャッチコピーやキービジュアルをもとに各種広報物を作成し、「設置計画中」として広報活動を開始した。 なお、事業遂行の過程で継続的な事業実施による効果・効率の向上を図るため、事業計画の一部をフェーズ2に後う移した。また、事業執行過程においてフェーズ2実施に関する教育環境の事前検討や雇用予定者の公募の不調等により、費目の一部を変更した。設置組織名については、山口県との協議・調整を経て、申請時の「情報文化学科」「情報社会学科」へ変更した。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
フェーズ2準備中			○年度自己評価 リストから選択してください。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和6年4月 国際文化学部情報社会学科（入学定員40人）新設学部案 更提出予定 令和6年4月 収容定員の変更（総入学定員5人増、総収容定員20人増）学部案 更提出予定		
フェーズ2準備中	2-① 令和6年6月～ 新学科実施のための教育環境（教室・自習室及び機器等、メタバース教育環境）の整備		○年度自己評価 リストから選択してください。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
開設又は定員増	令和7年4月 国際文化学部情報社会学科開設予定（入学定員40人、文学関係、工学関係） 令和7年4月 収容定員の変更（総入学定員5人増、総収容定員20人増）		
フェーズ2準備中			○年度自己評価 リストから選択してください。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和7年4月～ 新学科の運営並びに教育プログラムの運用の開始 3-② 令和7年4月～ 新学科実施のための教育環境（施設・設備）の活用 3-③ 令和7年4月～ 大学間連携を活用した新学科科目の実施と検証 3-④ 令和7年4月～ 高大接続事業（高校生向け講座開設、ジュニアリサーチセッション開催）の実施とさらに広がる取り組み（高校生向け先取り履修制度の導入等）の検討 3-⑤ 令和7年4月～ パートナー企業等及び地域が求める人材育成ワーキンググループとの協議 3-⑥ 令和7年4月～ 県内の高等専門学校等ならびに地域へ情報発信・広報 3-⑦ 令和7年4月～ 教育DX・PBLの推進に向けたFD研修の実施 3-⑧ 令和7年4月～ 新学科の発展・影響の調査に係る準備と実施		○年度自己評価 リストから選択してください。 ○年度自己評価 リストから選択してください。
			○年度自己評価 リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和6年4月 国際文化学部国際文化学科12人減員に関する学部変更届出予定（入学定員50人） 令和6年4月 国際文化学部文化創造学科7人減員に関する学部変更届出予定（入学定員45人） 令和6年4月 社会福祉学部社会福祉学科16人減員に関する学部変更届出予定（入学定員87人）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山口県立大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の変遷に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること、なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の策定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80％を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5％を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山口県立大学
-------------	-------	-----	--------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす資力の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）の②に基づき他機関が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した。

☒ チェック

⑭

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- A：連携を通じた教育体制の整備と実施（連携開設科目等に限らない）

☒ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

☒ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

☐ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
限内の企業や自治体等と連携したPBLを実施するしくみは既に整備済みであり、正課と課外教育として多くのPBLを実施してきた。今後は、フェーズ1期間において、特に新学科の新領域に特化したパートナー企業等との連携とマッチング機能をさらに強化して、文理融合型でDXを活用したPBL案件の成立を増加・維持する計画である。実際、令和5年度に国際文化学部の新課科目において限内の企業や自治体等と連携したDXによる課題解決（PBL）を6件実施する予定であり、フェーズ2期間での件数の増加と質的向上を目指して、連携企業数や内容を詰める計画である。また、「一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム」において、山口大学と山口学芸大学と連携して連携開設科目の開設を推進する計画である。令和5年度には、既に、「地域学」「DX概論」等の科目の相互提供の実施を開始すると共に、学年版・授業時間や学習管理システム等の大学間調整を開始しており、今後さらに教育連携の仕組み・体制を整備する予定である。	企業や知自体と連携した科目（PBL等）については、山口県内の企業ならびに団体（商工会議所）と連携した「DXによる課題解決（PBL）」を6件実施した。実施に際しては、コーディネーターと担当教員が企業等を何度も訪問し、PBLの内容やレベルについて合意した契約書等を交わして実施し、その結果については令和5年度末（令和6年2月）に学外の会場において発表した。発表会には関係する企業と大学生、教職員等が参加し、PBLの成果についての調評を得た。令和5年度の秋以降は、令和6年度に実施するPBLの仮討を開始し、コーディネーターと担当教員が企業・行政・団体等を訪問した結果、令和6年度実施予定数は9件となっている。また、「一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム」において、本学・山口大学・山口学芸大学の3大学が連携して行う連携開設科目については、令和5年度前期は「地域学」（本学提供）を、後期は「DX概論」（山口大学提供）を実施した。授業時間に10分のズレがあり、これについてはそれぞれの大学のカウンターパート教員が補って試行した。授業評価を行い、その結果を授業改善に活かしたほか、学年版や授業時間の統一に関する協議を重ね、令和6年度から同一時間帯で実施できる	

- B：多様な入学者の確保に向けた取組

☒ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

☐ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

☒ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

☒ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

☐ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
多様な入学者を確保するため、総合型選抜方式による入学者選抜を新規導入するとともに、一般選抜の科目を従来の国際文化学部から見直す予定である。さらに、入学前教育の充実・強化を実施する計画である。そのため、フェーズ1期間において、県内地域の高等学校等への説明会を実施し、受験生への影響が発生しないように努める。なお、国際文化学部の女子学生比率が83.9%（令和5年度）と高く、女子学生確保は十分に見込まれる。今後は高大連携推進室を中心に、県内の高等学校等とのさらなる連携強化（出前授業、高校生と大学生が共に学び合う講座の実施、高校生向け先取り履修制度の導入、附属高校の設置を含む）の検討を実施する予定である。女子学生確保系・工学系の領域に興味関心をもつよう、また、社会人がいつでもどこからでもリスキリング教育にアクセスしやすいよう、メタバース教育空間を導入・整備する。新学科の数理データサイエンス、AI、DXに関する授業のほか、大学院で夜間開講している情報系科目を活用して、社会人のリカレント・リスキリングに対応する。	多様な入学者を確保するための総合型選抜方式による入学者選抜について検討を重ね、一般選抜における科目の見直しの協議も行った。科目の見直しについては令和5年6月末に、また、新しく導入する総合型選抜については令和5年12月に説明会を実施した。また、新学科に関する広報を令和5年7月及び8月に開催したオープンキャンパスで行い、高校生や保護者に周知するとともに、8月から9月にかけて行った高校訪問でも説明をしている。県内高校との連携強化については、出前授業を通じた学科説明や、高校生と大学生が学びあう高大接続講座等を通して行ったほか、高大接続推進室を設置して附属高校設置や高校生先の取組履修制度について協議を重ねた。その結果、令和8年度から附属高校を設置することが確定している。中学生や社会人もアクセスが容易なメタバース教室空間の構築については、先行事例を調査しつつ、いくつかの業者と具体的な協議を行った。令和5年度には試行を行うこととし、新学科の教員等が実際にメタバース空間での講義を体験し、また、学生の教育成果（PBLの発表ポスター）をメタバース教室内に展示し、令和6年度当初のPBLマッキングに活用できるように準備したほか、令和6年度に行うメタバース教室における新学科説明会、入学前教育の支援等に関する準備も行った。	

大学名	山口県立大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

[illegible]

大学名	山口県立大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	山口県立大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	314	314																	
		入学者数	人	323	333																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	314	314																	
		入学者数(B)	人	323	333																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.03	1.06																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1256	1256																	
		編入学定員	人	***	***																	
		在籍者数(D)	人	1314	1310																	
		編入学者数	人	***	***																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.05	1.04																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定		開設			完成年度								
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		98,471	99,660	92,761	100,570	158,887	141,276													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	99,567
本事業による助成金の額(F)	千円	153,915
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	103,415

特記事項